

知って
おきたい

消化器の病気

第2回



丹野誠志

(たんの・さとし) 1990年旭川医科大学医学部卒、94年同大医学部大学院卒、同大付属病院准教授を経て、10年琴似ロイヤル病院副院長に就任。12年より同院院長、日本内科学会指導医。日本消化器病学会指導医。日本消化器内視鏡学会指導医。

膵臓がんになりやすい人とは

皆さんは膵臓がんに対して、どのようなイメージをお持ちでしょうか。

残念ながら膵臓がんは、いまだに早期発見が大変難しく、治りにくいがんの代表となつていきます。初期には特有の症状が出ないため、診断された時にはがんが進行している状態がほとん

どで、そのことが治療を難しくしています。ところが困つたところに、日本では最近特に増えているがんの一つなのです。それでは、できるだけ早期に発見するにはどうしたらよいの

でしょうか。それにはまず、どのような人が「膵臓がんになりやすい」のか、すなわち高危険群はどのような人なのかを知ることがとても重要です。なぜなら、高危険群の人が重点的に検査を受けることで、発見・治療できる機会が増えるからです。

最近の研究結果から、次の5項目のいずれかに該当する人は、「膵臓がんになりやすい人」で

あることがわかってきました。

- ① 膵のう胞（特にIPMNと呼ばれるのう胞性腫瘍）がある、
- ② 膵管が太くなっている、
- ③ 膵臓がんにかかった家族や親類がいる、
- ④ 急に糖尿病と診断された（または糖尿病が急に悪くなった人）、
- ⑤ 慢性膵炎がある、

となっております。

もちろん、これら5項目に該当しなければ膵臓がんにならない

い、ということではありません。しかしながらいずれかに当てはまる人は、「膵臓がんになりやすい人」として、定期検査を受けるなどの特段の注意を払う必要があることは知っておいた方がよいでしょう。

以上の点に加えて、膵臓がん

を早期に診断するには、膵臓の病気に精通した医師に診てもらうことが大切です。消化器の専門医であっても、膵臓を得意とする医師は実は多くありません。中でも、膵臓がんの診断に不可欠な「超音波内視鏡」を使いこなせる医師の診察が必要です。

「超音波内視鏡」は、胃カメラの先端に小型で精密な超音波装置を備えており、体の奥深く、胃の背中側にある膵臓をくまなく調べることができます。この検査は鎮静剤で眠っている間に実施しますので、胃カメラが苦手な人でも心配いりません。